

チームスポーツにおける 集団凝集性とコミュニケーションの関連について ～バレーボールチームを対象に～

スポーツ経営組織学ゼミナール 1315018 岸 佐子

1. 研究動機・研究目的

競技スポーツとりわけ集団競技において、個人スキルが高いことだけでなく、集団としての能力が求められ、その度合いは競技レベルが高くなるにつれ、また対戦相手との実力が拮抗しているほど、その能力は勝敗に影響すると考えられる。私はそれが団体競技の楽しさであり難しさであると考え、個人スキルの向上と組織としての能力を同時に向上させることは、集団競技においては共通する課題ではないだろうか。集団凝集性とコミュニケーション・スキルとの関連を明らかにすることにより、組織としての能力を向上させることができると考えられる。また、団体競技において個人スキルだけでなく、集団としての能力が求められるといった共通する課題が解決するのではないだろうか。しかし、これまでの集団凝集性に関する研究を概観してみると、チームパフォーマンスとの関連を見た研究は多く、その相関を見た研究は蓄積が進んでいる。しかしながら、ある一定期間（リーグ期間中）などにおける集団凝集性の変容に着目した研究は、散見される程度である。

以上を踏まえ、本研究では、大学生を対象にし、バレーボール部のリーグ戦期間内における集団凝集性の変容と、コミュニケーション・スキルの変容、また集団凝集性とコミュニケーション・スキルの関連ついての実態を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

今回は、コミュニケーション・スキルを測るため、年を重ねるごとに上がっていくとされるコミュニケーション・スキルは、高校生では未熟であると考え、高校生よりも年齢が高くコミュニケーション・スキルも上がり、さらに多種多様な地域から集まった大学生を対象に研究を進める。J大学男女バレーボール部の関東大学男子・女子1部バレーボールリーグ戦の期間に合わせ、2018年9月7日から2018年11月7日にかけて、リーグ戦前とリーグ戦中、そしてリーグ戦後の3回に分けてそれぞれ調査を行った。

また、質問紙を紙媒体で拡散すると、欠損値が多くみられる傾向にあるため、グーグル(Google)フォームを利用した。対象としたJ大学男女バレーボール部の部員のうち、有効回答数166名であった。本研究において回収したデータは、統計解析ソフトIBM SPSS Ver. 21を用いて統計解析を行った。

3. 主な結果と考察

スポーツ用集団凝集性尺度とコミュニケーション・スキル尺度の合計点による相関分析の結果から、「スポーツ用集団凝集性尺度」と「コミュニケーション・スキル尺度」の間に

は、有意な相関は認められなかった。ここでは、コミュニケーション・スキルがどの程度高くなれば集団凝集性の高さに影響を与えるのかを調べたが、相関は認められずその要因として、コミュニケーション・スキルではなくコミュニケーション量が増えるものであるからだと考えられる。コミュニケーション量が高くなれば、集団凝集性が高くなるのではないかと考えられる。

また、リーグ戦期間の変容に着目し分散分析を行ったが、集団凝集性とコミュニケーション・スキルと共にリーグ戦期間の変容が明らかにならなかった。今回はリーグ戦期間のだけを目安で調査を行ったが、リーグ戦の直前に調査をとったことで、リーグ戦前という回答があまりとることができなかったこと、リーグ戦中の調査はリーグ戦会場で行わなかったことでリーグ戦中という回答をとることができなかったこと、リーグ戦後の調査はリーグ戦直後にとらななかったことが、有意差が見られなかった原因だと考える。集団凝集性とコミュニケーション・スキルの高校時の競技成績の差は、両方とも高校時の競技成績が高い人の方が集団凝集性とコミュニケーション・スキルは高くなると仮説をしていたが、集団凝集性は高校時の競技成績で地方大会レベルよりも全国大会レベルの方が高いとされた。それは、全国大会レベルの方がチームに対する意識が高いからであると考えられる。また、県大会レベルよりも全国大会レベルの方が高いことから、同じように、全国大会レベルの方がチームに対する意識が高いからだと考えられる。地方大会と全国大会レベルでは両方ともチームに対する意識が高く、競技成績レベルの差にさほど差がないため、有意差は見られなかったのだと考えられる。

男女差の検討を行うために、平均値の比較である独立したサンプルのt検定を行った結果、集団凝集性とコミュニケーション・スキル共に有意差は見られなかった。これは、サンプルサイズが小さかったという問題がある可能性があると考えられる。サンプルサイズを大きくすれば、有意差が出やすいため、集団凝集性とコミュニケーション・スキルの男女に差はあるのかもしれないと考えられる。

4. 結論

- ①集団凝集性とコミュニケーション・スキルの間では、相関は認められなかった。
- ②集団凝集性は高校時の競技成績のレベルが高くなるにつれ、集団凝集性は高くなる。
- ③集団凝集性とコミュニケーション・スキルの男女差は有意差が見られなかったため、男女差がないとは言えない。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆にあたり、スポーツ経営組織学ゼミナールの指導教員である水野基樹先生には、多くの貴重なご助言をいただきました。ゼミナール活動では、組織行動学や組織心理学についてなど多くのことを学び、勉強させていただきました。今後の自身の糧にしていきたいと思います。アンケート調査では、リーグ戦期間中なのにもかかわらず順天堂大学男女バレーボール部の皆様に多大なるご協力をいただきました。お忙しい中、嫌な顔一つせずにアンケート調査にご協力して下さったことには大変感謝しております。卒業論文の執筆にあたり、ご協力、ご指導、ご鞭撻いただきました多くの方々に今一度感謝の意を表したいと思います。お力添えをいただきました皆様、本当にありがとうございました。